

## ～山崎亮汰

### 時の扉を抉じ開ける才気～

「現在が、あなたの生の最期の瞬間であるかのように生きよ」と言ったのはアウレリウスだったか…。

山崎亮汰が<ゾーン>に入るとき、時の扉が開き、不思議な哀しみと青白い永遠がステージに降りてくる。

その響きの強烈な眩しさゆえに、いにしえの調べは、いともたやすく時の壁を乗り越えて、今ここに現れる。

17歳の峻烈な才気に導かれ、今日、われわれは時空を超えて音楽の旅に出る。

## Program Note

[ソロ]

### モーツァルト：幻想曲 ニ短調 KV.397

Mozart, Wolfgang Amadeus : Fantasie d-moll K.397

古典期の天才ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756-1791)の作品には、作曲の経緯や動機が不明なものも多いが、「幻想曲 K.397」は自筆譜が残っておらず、作曲時期も不明で、不完全な終止に出版社が10小節の補筆を付けたことなどから、謎に満ちた作品である。冒頭のミステリアスな序奏の後、美しいアダージョの歌が続く。後半は明るいアレグレットに転じるが、モーツァルト研究者のアインシュタインは「最も高い意味で子供らしい、天国的な部分」と評している。

### リスト：ダンテを読んで～ソナタ風幻想曲 (巡礼の年第2年「イタリア」より)

Liszt, Franz : Annees de pelerinage Deuxieme annee Italie S.161/R.10 A55  
"Apres une lecture du Dante-Fantasia quasi sonata"

フランツ・リスト(1811-1886)は、ピアノ演奏の名手として19世紀のヨーロッパで伝説的な名声を博し、自身が演奏するために、数多くのピアノ作品を作曲した。「巡礼の年第2年<イタリア>S.161」は、1837～39年頃に滞在したイタリアでの印象をもとにまとめられた7曲の作品集で、ダンテやミケランジェロなどの芸術作品から強い影響を受けている。

終曲「ダンテを読んで」は、曲集中もっとも規模の大きな作品で、ダンテ(1265-1321)の叙事詩『神曲』の「地獄篇」からインスピレーションを得て作曲され、中世以来「悪魔の音程」と呼ばれた増4度(ファに対するシ)を冒頭から用いて、激烈な苦悩と地獄を表現するなかに、神秘的で優美な部分などもみられる、音楽による壮大な叙事詩である。

[コンチェルト]

### ラフマニノフ：ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18

(共演：関本昌平 ピアノ2台による)

Rakhmaninov, Sergei Vasil'evich : Concerto for piano and orchestra No.2 c-moll Op.18  
(2 pianos with Sekimoto Shohei)

第1楽章	モデラート-アレグロ	1. Moderato - Allegro	c-moll
第2楽章	アダージョ・ソステヌート	2. Adagio sostenuto	E-Dur
第3楽章	アレグロ・スケルツァンド	3. Allegro scherzando	C-Dur

セルゲイ・ラフマニノフ(1873-1943)の作品の中でも、ピアノ協奏曲第2番は特に人気が高く、演奏機会も多い。モスクワ音楽院を首席で卒業した後、「鐘の前奏曲」で名を立てたラフマニノフは、新しいピアノ協奏曲に取り掛かるが、交響曲第1番の初演の失敗などにより自信を喪失し、極度の神経衰弱に陥る。1901年頃から、周囲の献身的なサポートと精神科医ニコライ・ダール博士の治療などもあり、ようやく作曲に復帰した彼が、満を持して発表したのがこのピアノ協奏曲第2番で、ラフマニノフ自身のピアノで初演され、1905年にグリンカ賞を受賞し、作品はダール博士に献呈された。

作品は3つの楽章からなる。荘厳なピアノの和音とアルペジオで曲が幕を開けると、オーケストラパートにより雄大な第一主題が提示され、続いて示される第二主題は一転してラフマニノフならではの甘くセンチメンタルな美しさに満ちている。第2楽章は哀愁を帯びた緩徐楽章。オケではクラリネットが奏する第一主題が多声的に扱われた後、中間部ではピアノによる華麗なカデンツァが奏され、最後は静かに曲を閉じる。終楽章は、軽快な雰囲気のアレグロ・スケルツァンド。気まぐれな第一主題と優美な第二主題の対比が鮮やかで、最後はピアノのカデンツァの後、2つの主題が見事に溶け合い、感動的に幕を下ろす。